

検討資料とりまとめ

抜粋

横浜市新たな劇場整備検討委員会

令和 2 年 12 月 24 日

第5章 基本計画の考え方

1 基本計画において重視すべき視点

わが国を代表する劇場としての取組方針及び市民生活を支える社会的基盤としての取組方針をもとにこれまでのわが国の劇場における課題やポストコロナにおける新たな社会価値などをふまえ、基本計画に当たり、重視すべき視点を取りまとめた。

(1) 世界トップレベルのバレエ・オペラの日常的公演

- ・国内外の舞台芸術の新たな創作に求められているニーズは多様化している。必ずしも大型化した舞台設備だけではなく、照明など多岐な視点が世界レベルでは必要である。
- ・一方、海外からの舞台装置などの搬出入、入れ替えにあたっては輸送を含めて全体として非効率な面も多く、効率化が図れるようにする。
- ・こうした課題をふまえ、国内外の主要なバレエ団、オペラ団の**トップレベルのパフォーマンスが可能となる設備、諸室などを備えた世界レベルの劇場とする。**

(2) 高い芸術性と創造力が発揮できる劇場

- ・本劇場を拠点とする実演団体や利用頻度が高い実演団体が、新作・新演出などの制作ができ、発信できる劇場とする。そのためには、大型スタジオ、リハーサル室など整備が必要である。
- ・また、育成機能の導入が継続的な創造力の発揮につながる。大型スタジオ、リハーサル室などは、育成機能においても必須の要件である。

(3) 顧客の感動をもたらす劇場

- ・世界レベルの劇場とは、アーティストのパフォーマンスとともに、**顧客視点から世界レベルの施設水準としなければならない。**
- ・顧客が劇場へのアクセス→エントランス・ホワイエ→観客席→幕間の休息→帰宅などの瞬間における感動の高揚を継続させる、劇場の景観から内部の内装までの質の高い空間づくりが求められる。
- ・特に、顧客特性に応じた差別化(例えば、旅客のエコノミーとビジネスのような差別化)の発想も考慮した空間づくりに配慮する。

(4) まちづくりの視点による劇場

- ・みなとみらい21地区の新たな開発地区である観光・エンターテインメントゾーンの入り口として先導的役割を果たさねばならない。
- ・この地区には、文化芸術施設、ホテル、エンターテインメント施設などが集積する計画であり、一体としての飛躍が期待される。賑わいづくり、回遊性などに配慮した動線、質の高い空間整備など、地区全体としての効果の発揮を念頭に劇場計画づくりを進める。

(5) ポストコロナの社会価値をふまえたスマート劇場

- ・「第1章 4 わが国を代表する劇場としての取組方針 (3) 技術革新の進展に対応するスマート劇場」(p.8) で示したように、急速なスピードで進化するデジタル技術を高い芸術性と創造力の発揮に生かしていく。技術を固定的にとらまえるのではなく、進化に応じて、劇場とアーティストが対応していく実証実験の場となるよう取組んでいく。
- ・コロナ禍において、多くの劇場やアーティストが、リモートの関係の中、映像や配信によるコミュニケーションと価値の共有につなげている。劇場の新たな顧客創造につなげていくための多様なニーズに応えていくことも重要である。また、海外劇場の初演の映像配信による上演、育成やコンクールなどへの積極的活用なども考えられる。
- ・こうしたことを基本計画の段階から検討が進められるよう、多岐にわたる専門家の関わりが重要である。

(6) これまでの劇場整備の教訓を生かす

- ・わが国では、これまで各地で劇場整備が進んでおり、運用において維持管理含めて様々な課題に直面している。ヒアリングでは、例えば、実態としてあまり使われていない舞台機構、点検や維持管理費用が膨大になる設備、一方で、実演団体から求められるニーズが整備後では対応が困難なことも多くあるなど聞いている。これまでの教訓を生かした計画作業を進める。
- ・アーティスト視点からの計画づくりも重要である。これまでの劇場での実績を横並びする計画ではなく、現場に即したものとして立案すべきである。例えば、裏動線や楽屋での備品類など詳細事項は、アーティストとのニーズを十分に生かしていくべきである。

(7) 屋外空間の活用

- ・コロナ禍において、閉鎖空間への懸念から屋外空間の活用が改めて見直されている。当劇場でも、オープンスペース(平面、屋上など)を積極的に劇場機能として活用できる計画とすることや高島中央公園を生かしたプログラムやパブリックビューイングなども考えられる。
- ・また、劇場がプログラムを実施していない時間帯においても、オープンスペースなどでの交流や賑わいの空間となるよう計画立案すべきである。

(8) 市民利用の機能

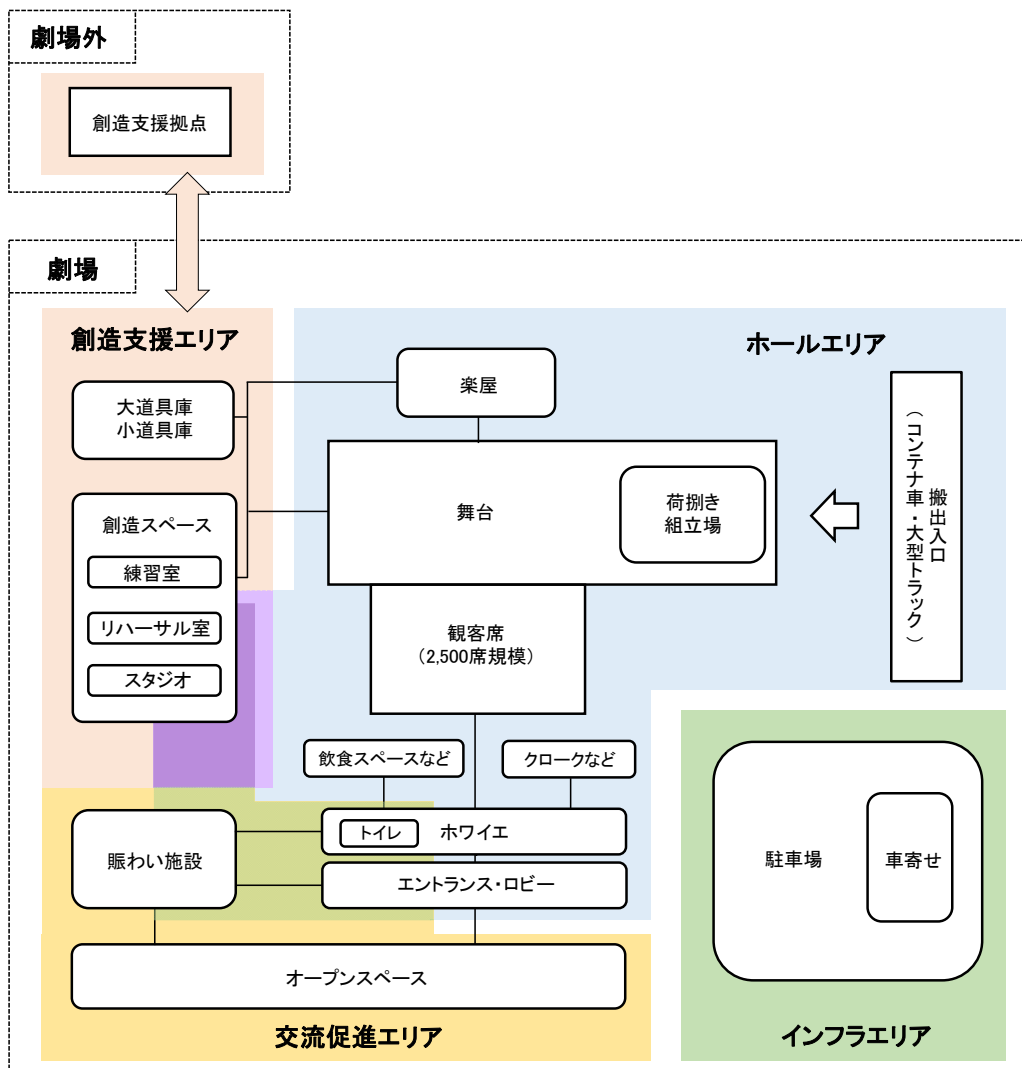
- ・新たな劇場では、リハーサルルームやスタジオなどを活用し、例えば、拠点としている実演団体との交流などの場、また、地域の舞台芸術活動団体の練習の場などとして市民利用の促進につなげる。
- ・エントランスホールやホワイエなどは、賑わい空間として積極的な活用をすべきであり、その際、市民利用として、例えば、市民コンサートなどとしての利用が考えられる。

2 導入機能の整理

劇場の有する施設機能を担う役割ごとに4つのエリアにゾーニングし、それぞれの機能の関連について整理する。

施設の構成イメージ

エリア	機能	事例
ホールエリア	バレエ、オペラなどの舞台芸術が、世界レベルの優れた環境のもとに高い芸術性が発揮され、鑑賞できる	観客席、舞台、ホワイエ、エントランスロビー、楽屋、搬出入口、荷捌き組立場など
創造支援エリア	新作や新演出などの新たな制作づくりや育成機能の導入、ワークショップや市民参加による交流などが行われる	創造スペース（練習室、リハーサル室、スタジオ）、大道具庫、小道具庫、創造支援拠点（劇場外）
交流促進エリア	観光エンターテインメントゾーンの拠点として、劇場のオープン時にとどまらず、周辺と一体となった賑わい・交流空間とする	オープンスペース、賑わい施設
インフラエリア	周辺施設の動線と連携し、来場者、資機材などの移動の効率性と安全性の確保	駐車場、車寄せ

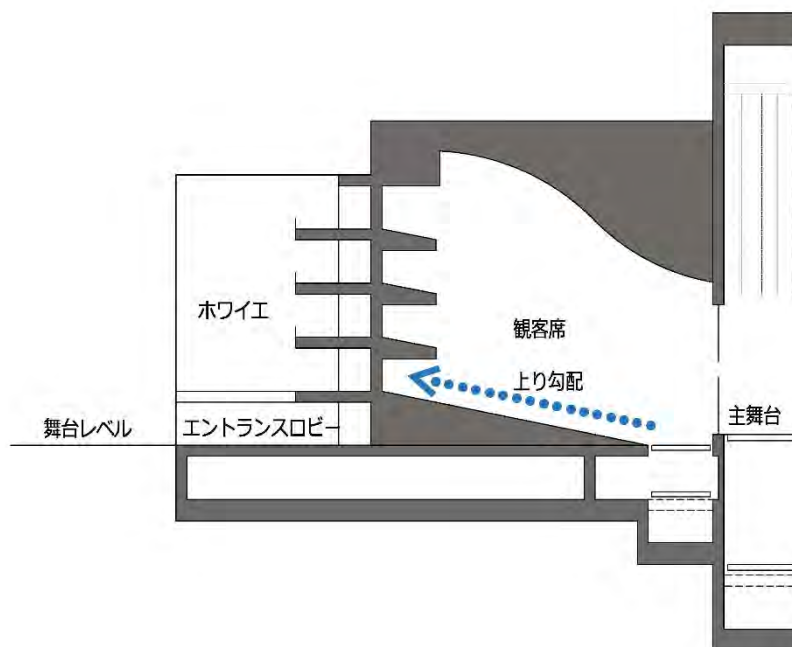


3 基本事項の方向性

【ポイント1】劇場の基準となる舞台などのレベル設定

[主な論点]

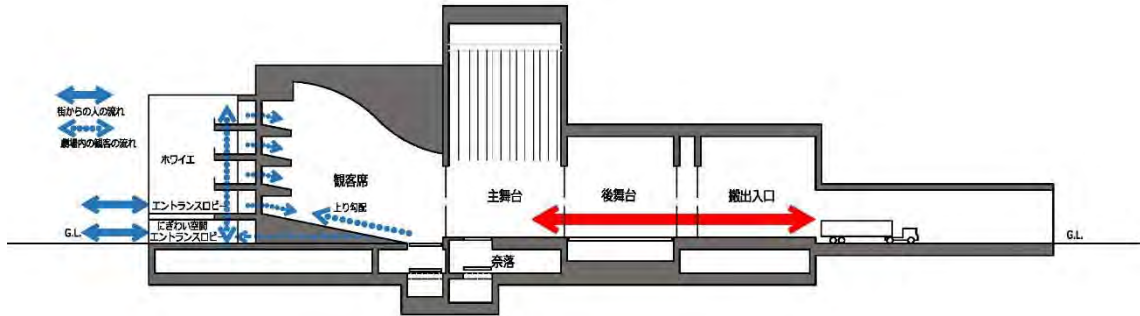
- ・観客席の形状は、舞台から観客席後方入口にかけて上り勾配を形成することから、エントランスロビー・ホワイエにつながる観客席後方入口は、舞台レベルよりも1階程度高くなる。
- ・舞台と搬出入口を同一レベルとすることで、搬出入を効率的に行うことができる。
- ・一般的にメインエントランスは周辺道路からのアクセス、一体としての賑わいづくりから1階レベルでの配置が考えられるが、その場合は、舞台レベルが地下階になってしまう。舞台レベルとメインエントランスレベルの設定が重要な要素となる。



※検討のために策定した図であり、計画図を表すものではない

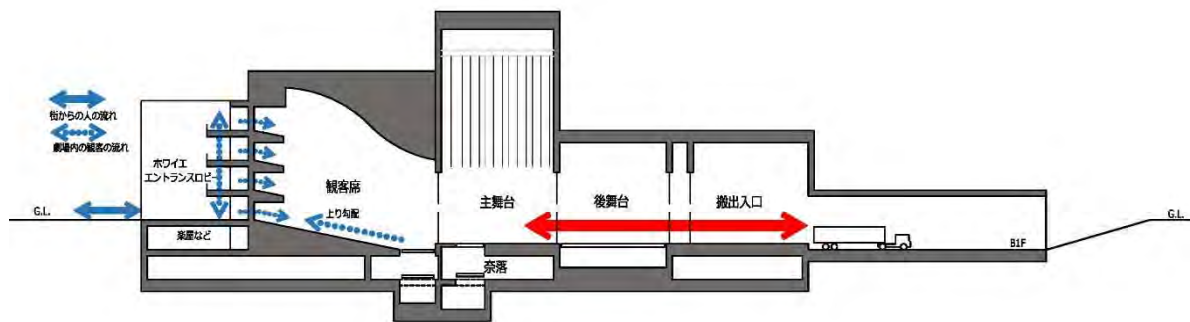
案1 舞台レベル1階、メインエントランスレベル2階の配置案

- ・ 外周道路と搬出入口まで平坦であり、資機材の搬出入に要する時間を短縮できる。
- ・ 地上部のオープンスペースなどの有効利用面積が少ない。
- ・ メインとなるエントランスロビー・ホワイエへのアクセスに工夫が必要。



案2 舞台レベル地下階、メインエントランスレベル1階の配置案

- ・ 搬出入口が地下階となり、車路（スロープ）による接続が必要となる。
- ・ 搬出入エリア上層をオープンスペースなどへの有効利用が図れる。
- ・ 舞台と同じ階に設ける楽屋やリハーサル室などが地下階となり、自然光が入らない空間となる。
- ・ メインとなるエントランスロビー・ホワイエへのアクセスが分かりやすい。



※検討のために策定した図であり、計画図を表すものではない

[方向性案]

- ・ 本格的なバレエ、オペラの公演のため、コンテナ車や大型トラックによる搬出入が頻繁に行われる。迅速な荷捌きのため搬出入口と舞台レベルは同一レベルを基本とする。引き続き、両案併記の中で検討を進める。

【ポイント2】舞台・舞台設備

海外のトップレベルの実演団体が高い芸術性を発揮でき、世界に通用する水準とする。舞台機構の仕様は、新国立型（4面舞台+大迫り）が国内の劇場のひとつのスタンダードとして考えられている。欧州の新劇場では、リハーサル室や組立てヤードも兼ねて、5～6面舞台を採用している事例もある。

ア 舞台面数

【主な論点】

- ・バレエ・オペラの日常的な上演を可能にするためには、実演団体のレパートリー作品の連続公演や、複数団体による同時利用が想定される。公演間隔を短縮し、効率的な運営を行うには、主舞台の近くに舞台装置を組立てた状態で準備しておく必要があるため、複数の舞台面を備えた多面舞台とする。

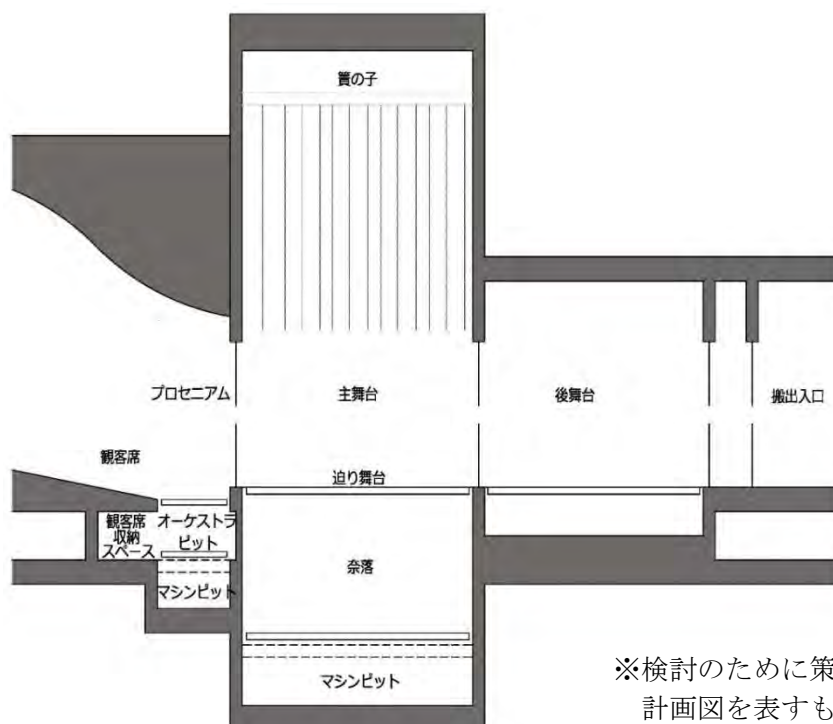
【方向性案】

- ・多面舞台の面数については将来を見据え、検討する。現段階では、運用の見通し、費用面からの評価などをふまえ、引き続き、検討を進める。

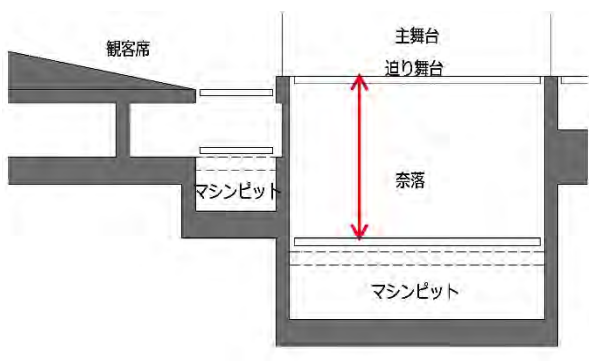
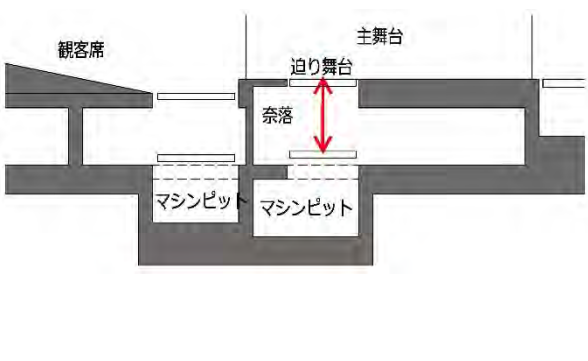
イ 床機構

【主な論点】

- ・幕間での大がかりな場面転換や異なる演目の連続公演を円滑に行うため、舞台間を水平移動できる床機構を設けている事例がある。しかし、ヒアリングなどでは、最近のバレエ、オペラの利用では連続公演がなく、大がかりな舞台転換もないため、そのような床機構までを使用しないケースも多いとのことである。
- ・大がかりな場面転換、資機材の搬出入などのため、舞台面の上下移動が可能となる迫りを設けている劇場もある。資機材の搬出入ルートが舞台レベルより低くなり、奈落付近での資機材の荷捌きや保管、主舞台への舞台装置の移動として利用している事例が多い。
- ・今回の計画案では、資機材の搬出入ルートを主舞台と同じレベルで設定する。多面舞台を含めたヤードで組立保管などを行うことから、奈落への舞台装置の収納（大迫り）の必要性が論点となっている。
- ・近年では、舞台演出技術における仮設対応（迫りや回り舞台など）の技術力が著しく向上しており、大がかりな床機構設備を設けない傾向にある。



[比較案]

<p>(案1)主舞台全体が上下移動するための機構を設ける。 (大迫りの採用)</p>	<p>(案2)主舞台全体が上下移動するための機構は設けない。切り穴(※)などで人の移動は可能とする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・本計画では、資機材の上下移動が必要となるようなルート設定は採用していないため、主舞台の上下移動の必要性は、上演中の舞台転換のためだけである。 ・舞台装置を組立てた状態で収納する奈落深さが必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主舞台全体の上下移動の設備が不要な分、コストの低減につながる。 ・人物の移動に必要な奈落深さが必要となる。 ・奈落を倉庫などで有効に利用できる。
	

※検討のために策定した図であり、計画図を表すものではない

水平移動	上下移動	舞台面数	国内事例
有	大迫り	4面	新国立劇場 富山市芸術文化ホール(3.5面) アクトシティ浜松 愛知県芸術劇場(3.5面) 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
無	切り穴など	4面	札幌文化芸術劇場 hitaru 高崎芸術劇場(3.5面) まつもと市民芸術館 堺市民芸術文化ホール(3.5面) 兵庫県立芸術文化センター
有	大迫り	3面	神奈川県民ホール 横須賀芸術劇場
無	切り穴など	2面	東京文化会館

<事務局調べ>

[方向性案]

- ・新たな舞台機構について、将来を見据え、検討する。現段階では、運用の見通し、費用面からの評価などをふまえ、引き続き、両案併記で検討を進める。
- なお、概算建設費の算出においては、水平移動や大迫りなどの大がかりな床機構は想定せず、切り穴などの人物の登退場に対応できる程度の床機構を想定する。

※ 切り穴とは（公益社団法人全国公立文化施設協会ホームページより抜粋）

舞台床に設けられた小さな開口部で、通常は蓋がしてあり必要に応じて人などが出入りする穴。

ウ 吊り機構

[方向性案]

主舞台上部にはフライタワーを設け、バレエ・オペラの多彩な演出に対応可能な吊り機構や各種バトン類を設ける。特に、バレエの舞台演出では、バトンの使用が多いことから、十分な数を設置する。

【ポイント3】観客席

[方向性案]

- ・国内の他施設の客席数や、チケット収入など公演の採算性などを考慮し、客席数は約2,500席（オーケストラピットは含まない）を確保する。
- ・観客席先端から最後部までの最大視距離に配慮し、主舞台を全域から見渡せるような配置を目指す。また、すべての観客席からオーケストラピットの指揮者が見えるサイトラインを確保することを目指す。
- ・観客席と舞台との距離を短くできる多層バルコニー形式を基本形態とする。

【参考】国内外の主な劇場の客席数

施設名	客席数
札幌文化芸術劇場 htiaru	2,302 席
神奈川県民ホール	2,493 席
アクトシティ浜松	2,336 席
愛知県芸術劇場	2,480 席
NHKホール	3,606 席
フェスティバルホール	2,700 席

【ポイント4】エントランスロビー・ホワイエ

[方向性案]

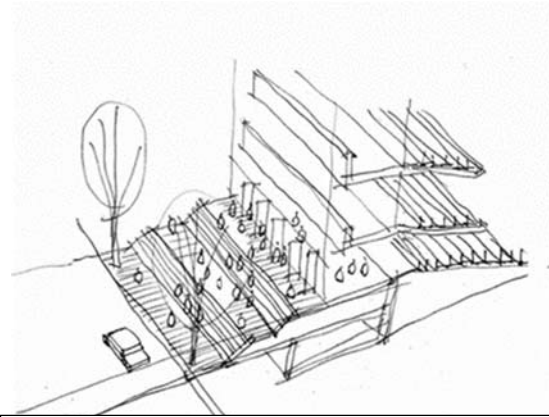
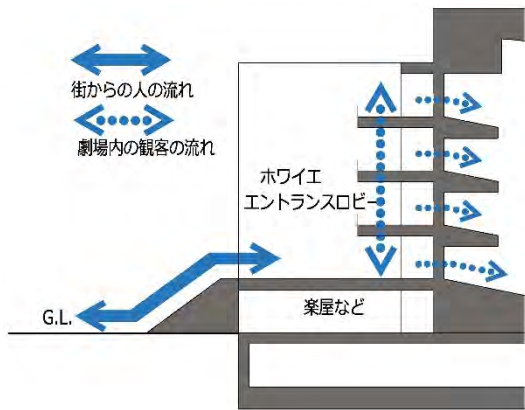
- ・エントランスロビーは、劇場の顔である。公演がない場合でも、閉鎖的で暗い空間とならないよう、交流、賑わいのある場となるよう、計画立案する。
- ・高島中央公園や周辺施設との回遊性も考慮し、一体性のあるオープンスペースを検討する。
- ・劇場利用者の観客席フロアへの上下方向の移動を円滑に行える計画とする。
- ・エントランスロビーは、開場前の観客の滞留に十分対応でき、ロビーコンサートなどにも対応できるスペースを確保する。
- ・ホワイエには、開演前や幕間をゆったりと過ごせるスペースを確保し、劇場の雰囲気をも高めるような飲食スペースを設ける。
- ・クロック、トイレ、飲食スペースは、幕間など鑑賞者がホワイエに集中することを考慮した動線計画及び規模とする。

[比較案]

案1 搬出入口と舞台を1階レベルに配置

(案1①) 2階レベルをエントランスロビー空間とする

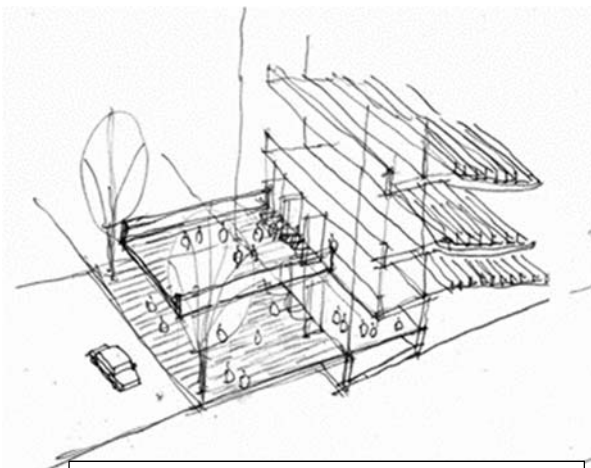
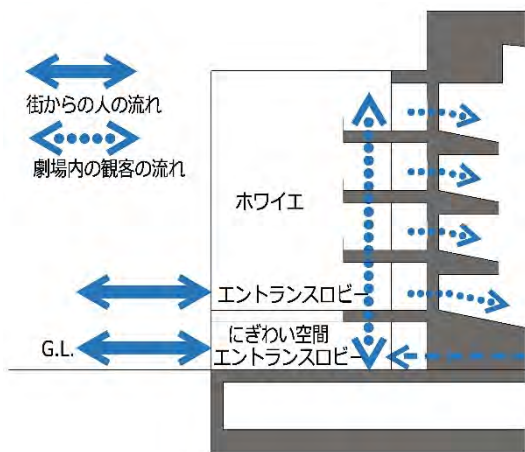
- ・外周道路レベルから劇場2階レベルへのアプローチとして、敷地内オープンスペースでのなだらかな接続、またはエントランスロビー空間内での階段などによる接続がある。
- ・1階レベルは楽屋などとして活用が可能であるが、例えば道路に面した賑わい空間としての活用が困難。
- ・将来計画の歩行者動線との調整が必要であるが、2階レベルに歩行者通路を設置し、エントランスロビーと接続することも可能である。



外周道路から劇場レベル（エントランスロビー）へなだらかにオープンスペースでつながるイメージ

(案1②) 1階レベルと2階レベルにそれぞれエントランスロビー空間を設置

- ・エントランスロビー空間内で2階レベルへのアプローチが必要。歩行者動線が複雑で、エントランスロビー空間の十分な確保が困難になる。
- ・1階レベルを、例えば道路に面した賑わい空間としての活用が可能。
- ・1階レベルからも観客席に入退場できるため、退場時や避難時の混雑緩和に有効である。

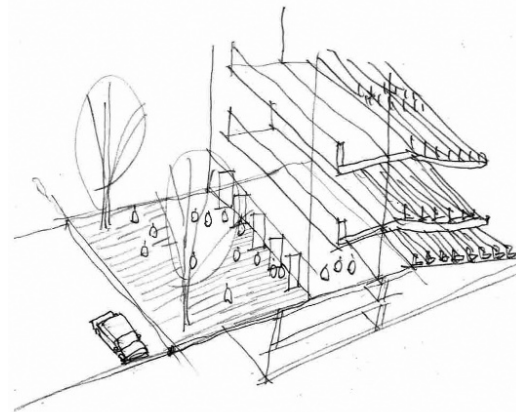
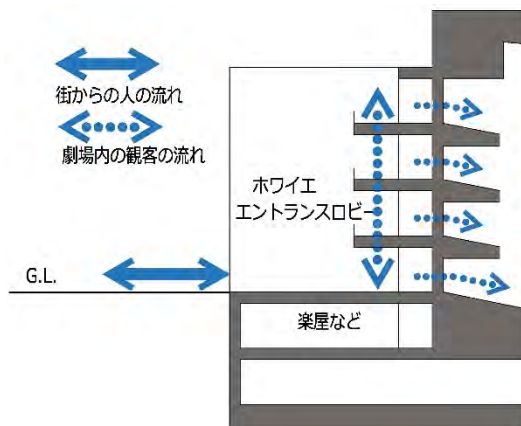


外周道路から同一レベルで1階につながり、デッキなどで2階につながるイメージ

※検討のために策定した図であり、計画図を表すものではない

案2 メインとなるエントランスロビー・ホワイエを1階レベルに配置

- ・外周道路からオープンスペース、エントランスロビー・ホワイエ、そして観客席入口に至るまでのレベルがほぼ平坦につながるため、歩行や移動に要する負担が少ない。
- ・外部と劇場内部がシンプルにつながりとなり、視覚的にも見通しが良く、利用者にとって分かりやすい空間となる。
- ・オープンスペースとエントランスロビー・ホワイエを連続、一体化したスペースとして有効活用を期待できる。
- ・劇場とまちとのつながりを自然なかたちとして整備可能であり、公演がない日も道路に面した賑わい空間としての活用を期待できる。



外周道路から同一レベルで1階につながるイメージ

※検討のために策定した図であり、計画図を表すものではない

【ポイント5】高い芸術性と創造力を支えるバックヤード

[主な論点]

- ・本劇場では、拠点として活動する実演団体が存在することを前提に、高い芸術性と創造力を発揮できるよう、ハード面からの支援が必要である。
- ・日ごろからの練習や制作の取組などを活発化するため、スタジオや倉庫、舞台衣裳や舞台装置などの製作のための工房を充実させるべきである。
- ・また、海外招聘などにおける本格的なバレエ団、オペラ団の滞在においても、十分な活用ができるよう検討すべきである。
- ・劇場の限られたスペースにおいて、スタジオや倉庫、工房などをどれだけ整備すべきか検討する。

[方向性案]

ア 創作専用リハーサルルーム

- ・主舞台と同規模で、オーケストラも可能な創作専用のリハーサルルームを設置する。あくまでも、アーティストが主舞台と同様の感覚を持てることにこだわったスペースとする。場所としては、例えば、最上階のようなスペースが有効である。

イ スタジオ

- ・スタジオは、主舞台を想定した十分なスペースと設備の整った仕様とする。例えば、組立式の仮設観客席床、上部には、固定のキャットウォーク、照明やスピーカー、吊物バトンの設置が可能となるようにする。こうしたスタジオを複数設けることとするが、今後、ヒアリングなどふまえ、設置数を確定する。

【写真5】スタジオシアター（高崎芸術劇場）



ウ 倉庫・工房

- ・劇場内には、短期間で入れ替える資機材などを保管する倉庫を確保する。例えば、年1回のプログラムで使用する舞台美術など、長期間保管する倉庫は、劇場外で確保する。
- ・劇場内には、簡易に手直しするような工房スペースを確保することとし、本格的な舞台衣裳や舞台装置の製作などは、別途、外部民間企業で確保する。